

平成29年度 全国学力・学習状況調査における

北九州市立 花房 小学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、平成29年4月18日(火)に、6年生を対象として、「教科(国語, 算数)に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思っております。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. 調査内容

- (1) 教科に関する調査(国語, 算数)

主として「知識」に関する問題(A)	主として「活用」に関する問題(B)
<ul style="list-style-type: none">・身につけておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容・実生活において不可欠であり、常に活用できるようにになっていることが望ましい知識・技能	<ul style="list-style-type: none">・知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力・様々な課題解決のための構想を立て実践し、評価・改善する力

- (2) 児童質問紙調査

児童質問紙調査
○学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

※本校の6年生は、単学級ですので、個人が特定されないように公表の方法については、配慮しています。

3. 教科に関する調査結果の概要

(1) 全国・本市の学力調査(国語A・B, 算数A・B)の結果

本年度の結果	国語A		国語B		算数A		算数B	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	11.0	74	5.1	57	11.6	77	4.9	44
全国	11.2	75	5.2	58	11.8	79	5.1	46

(2) 本校の学力調査結果の分析

国語A	全体的な傾向や特徴など	<ul style="list-style-type: none"> 全体的には全国平均正答率とほぼ同じだった。書く力を問う問題は正答率が高かった。 読む力を問う問題に課題があり、読み取る力を付ける必要がある。
	よくできた問題	<ul style="list-style-type: none"> 手紙の構成を理解し、後付けを書く問題は正答率が高い。
	努力が必要な問題	<ul style="list-style-type: none"> 俳句の情景を捉える問題については、正答率が低かった。

国語B	全体的な傾向や特徴など	<ul style="list-style-type: none"> はじめて、全国平均正答率を上回った。 記述式の問題に対する正答率が極めて高い。 読む力を問う問題が唯一全国平均をやや下回っていた。
	よくできた問題	<ul style="list-style-type: none"> 目的や意図に応じて話の構成や内容を工夫し、場に応じた適切な言葉遣いで自分の考えを話す問題の正答率が高かった。
	努力が必要な問題	<ul style="list-style-type: none"> 自分の考えを広げたり深めたりするための発言の意図を捉える問題は正答率が低かった。

算数A	全体的な傾向や特徴など	<ul style="list-style-type: none"> 全体的には、全国平均正答率とほぼ同じだった。数と計算や図形の問題はよく出来ていた。 「量と測定」領域の問題は、全国平均を下回り、力を注ぐ必要がある。
	よくできた問題	<ul style="list-style-type: none"> 円を使って五角形をかくとき、円の中心のまわりの角を何度ずつに分割すればよいかを書く問題の正答率が高かった。
	努力が必要な問題	<ul style="list-style-type: none"> 示された平行四辺形の面積の半分の面積である三角形を正しく選ぶ問題は正答率が低かった。

算数B	全体的な傾向や特徴など	<ul style="list-style-type: none"> 全国平均正答率をわずかに下回っていたが、「量と測定」「数量関係」領域は全国平均を上回っていた。 無解答率が低く最後まであきらめずに問題に取り組む姿が見られた。 数と計算や図形についての知識・理解の力は付いてきているが、応用する力はまだ高くない。
	よくできた問題	<ul style="list-style-type: none"> 料金の差を求めするために、示された資料から必要な数値を選び、その求め方と答えを記述する問題の正答率が高かった。
	努力が必要な問題	<ul style="list-style-type: none"> 身近なものに置き換えた基準量を割合を基に、比較量を判断し、その判断の理由を記述する問題の正答率が低かった。

4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概

質問紙調査の結果分析
<p>「自分にはよいところがあると思いますか」が、半数以上があてはまらないと回答している。しかし、「人の役に立つ人間になりたい」と、ほとんどの児童が思っていることと、「将来の夢や目標を持っている」と回答した児童は高いことから、自尊感情を高める指導を行い、それぞれが、将来の夢を実現できるように目標を設定させ、行動に結び付けさせる必要がある。</p> <p>・テレビやビデオを見る時間やゲームをしたり、スマートフォンで通話やメールをしたりする時間が本年度も全国を上回っており、日々の生活面の指導を継続し、保護者への啓発も一層行っていかなければならない。</p> <p>・家庭学習の時間については、まだ、全国より下回るが、昨年度よりも増えてきている。</p>

5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組(全校で・学年で・学級で)

<ul style="list-style-type: none"> 1学期の成果と課題から2学期以降の少人数指導の強化を行う。特に算数科指導に力を入れる。2・3・5年生の算数に単元を決めて教務主任が少人数指導に入る。6年生には学力向上推進教員が中心的に授業をサポートする。1年生、あおぞら学級(情緒)には、時間講師が補助としてはいる。また10月からは週2回の職朝を、週1回の終礼に変更し、毎朝、スキルアップタイムとして国語・算数の基本問題を行う。曜日を決めて、管理職・教務主任が各学年に週1回入り、児童の指導にあたる。また、月・金の6校時に2年生の補充学習を行う。
--

② 家庭生活習慣等に関する取組

<ul style="list-style-type: none"> 引き続き、各クラス宿題チェック、名札等の忘れ物チェックを毎日行い、基本的な生活習慣の徹底を図る。また、自主学習ノート掲示コーナーを作り、自主学習への取組への意欲を高める。 保護者への啓発は、月に1回のPTA理事会で学習面と生活面の児童の様子報告と協力要請を行う。また、各担任からは、学級通信での伝達とお願いを行う。必要に応じて、個別に保護者と連絡を取り合い、共通理解を図る。
--